

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

EB ウイルスの抗体価と関節リウマチの疾患活動性に関する研究

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部附属板橋病院 リウマチ・膠原病内科 （研究責任者）北村 登

＜研究期間＞

承認日 ～ 令和 5（西暦 2023）年 12月 31日

＜研究の目的と意義＞

関節リウマチ(RA)の発症は遺伝的素因に環境要因が関与して発症するといわれています。その環境要因として、歯周病感染や喫煙は代表的ですが、ウイルス感染、特に Epstein-Barr virus(EBV)の感染が RA の発症に関係している事がいくつかの研究で明らかになっています。動物実験では RA 類似の関節炎に EBV が関与している事は分かっていますが、実際の臨床で EBV が病期の活動性や骨の破壊に関与している事は証明されていません。今回私達は EBV が再活性化する時に上昇する抗 EBV EA IgG 抗体を指標として、RA の患者さんで抗 EBV EA IgG を測定している方を調べて、陽性の方と陰性の方で、その病期の活動性や骨破の壊の程度を評価する事で RA の病期の活動性に EBV がどれくらい関与しているかを解析する事を目的とします。

＜利用する試料・情報の項目＞

今回の研究では診療記録より、年齢、性別、RA の疾患活動性、X 線写真、血液検査データ（血算(リンパ球数含む)、炎症反応、血液生化学所見、免疫学所見(リウマトイド因子、抗 CCP 抗体等、EBV の抗体価)、治療方法、転帰の情報を使用いたします。

＜対象となる方＞

西暦 2012 年 1 月 1 日～西暦 2022 年 4 月 30 日の期間にリウマチ・膠原病内科で RA と診断され、抗 EBV EA IgG 抗体を測定されたことのある方。

＜研究の方法＞

対象となる患者さんのカルテから上記の結果を調査し、抗 EBV EA IgG 抗体陽性の方と陰性の方とでの臨床症状、検査結果、エックス線上の変化の差を調べます。

＜お問い合わせ窓口＞

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

リウマチ・膠原病内科 氏名:北村 登

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2402 (PHS)8012